

上海駐在員日記（その2）

茨城県上海事務所 海野 仁男

はじめに

2016年4月から茨城県上海事務所に駐在員として勤務して1年が過ぎようとしております。今年、日中国交正常化45周年の節目の年でもあります。現地での生活も大分慣れてきましたが、やはり国が違えば、言葉や文化も大きく違います。文化の違いや習慣の違いなど戸惑うことも多いものです。訪日外国人が、過去最高の2,400万人越えといわれるなかで、訪日外国人のトップは中国で630万人余り。「爆買い」が勢いを失い、モノ消費からコト消費と呼ばれる体験型へと旅行スタイルが移行するなかですが、訪日客は確実に増加しています。日本の報道では、とかく中国人のマナーが悪いとかそういった事ばかりが報道されがちです。確かに、一部にはそういったマナーの悪い人もいますが、中国人全員が、マナーが悪い訳ではありません。今回は、上海での生活で感じた最新の現地事情を中心に報告したいと思います。

中国国内の時差

前回も話しましたが、中国の国土は広大です。日本の25倍の国土です。東は黒竜江とウスリー川の合流するところ(東経135°)から、西はパミール高原(東経73°)まで、広がっています。またがる経度は60°余りもあります。理論的に計算すると、東の端と西の端では日の出の時刻が4時間も違うこととなりますが、こんなに広大な国土なのに、中国国内

JNTO訪日外国人推移

国・地域	総数Total			総数Total		
	2015年	2016年	伸率 (%)	2015年	2016年	伸率 (%)
	12月	12月		1月~12月	1月~12月	
総数	1,773,130	2,050,600	15.6	19,737,409	24,039,000	21.8
韓国	415,656	494,400	18.9	4,002,095	5,090,300	27.2
中国	347,034	427,500	23.2	4,993,689	6,373,000	27.6
台湾	265,811	278,700	4.8	3,677,075	4,167,400	13.3
香港	157,425	189,800	20.6	1,524,292	1,839,200	20.7
タイ	93,478	96,400	3.1	796,731	901,400	13.1
シンガポール	67,001	75,900	13.3	308,783	361,800	17.2
マレーシア	50,264	63,300	25.9	305,447	394,200	29.1
インドネシア	29,312	40,900	39.5	205,083	271,000	32.1
フィリピン	32,679	41,300	26.4	268,361	347,800	29.6
ベトナム	10,344	13,100	26.6	185,395	233,800	26.1
インド	6,685	7,500	12.2	103,084	123,000	19.3
蒙州	49,359	51,500	4.3	376,075	445,200	18.4
米国	89,912	105,000	16.8	1,033,258	1,242,700	20.3
カナダ	21,970	24,600	12	231,390	273,100	18
英国	19,410	20,800	7.2	258,488	292,500	13.2
フランス	14,255	15,500	8.7	214,228	253,400	18.3
ドイツ	10,173	10,700	5.2	162,580	183,300	12.7
イタリア	8,402	8,400	0	103,198	119,300	15.6
ロシア	3,913	4,400	12.4	54,365	54,800	0.8
スペイン	4,871	5,700	17	77,186	91,800	18.9
その他	75,176	75,200	0	856,606	980,000	14.4

出典名：「日本政府観光局（JNTO）」

の標準時は1つだけです。

アメリカ本土では、西海岸と東海岸では3時間の時差があります。アメリカと同じくらい広大な国土をもつ中国ですが、実は、国内の時差はありません。同じ時計で生活をしていて時差が無いのは、国内でお互いが連絡を取り合うのには相手の時間を気にしなくて良いのですが、良いことばかりでもありません。

上海と日本の時差は1時間です。上海から更に西、約1,700kmにある成都市は日の出が上海よりも約1時間遅いです。ご存知のように、日の出は西に行くほど遅くなります。昨年11月に成都のイトーヨーカドーで開催されたジャパングランドというイベントに参加したのですが、成都の夜明けはとても遅いです。朝7時を過ぎてもまだ真っ暗です。確か、成都の日の出は7時半位だったと記憶しています。車はヘッドライトをつけて走っているのに、学校は通学時間になっているというような状況が冬場の日常です。更に年末には日の出が8時頃になります。こんな日常を想像できますか？

夜明けが遅いせい、午前中はショッピングセンターの来客もまばらでした。お昼くらいから客足が増え夕食時間の18時前後が一番来客のピークになるようです。私も、真っ暗な朝の7時というのは、初めての経験であったためか体が活動モードに切り替わらない感じでした。やはり、人間は太陽が昇らないと活発な活動は難しいと感じさせられる経験でした。(なお、新疆ウイグル自治区には、非公式ながら、北京時間マイナス2時間のウルムチ時間を使用することも多いようです。)

日本と中国の「愛」

漢字の種類が日本と中国で違うことは前回お伝えしましたが、「愛」という漢字は、日本では、「愛」です。真ん中に心があります。中国では、「愛」です。簡体字に移行する時に「心」がなくなりました。代わりに「友」があります。簡体字は、

書くのには便利ですが、本来の意味などはわからなくなってしまう寂しいと感じています。

以下の漢字は、国や都市の名前ですが、皆さんはいくつわかるでしょうか。日本でも外国の地名を漢字を使って表すことがあります。例えば、米国といえばアメリカ合衆国です。中国には、ひらがなやカタカナが無いので、音や意味を元に漢字をつけています。

①美国、②德国（德国）、③金門橋（金門橋）、④澳門（澳門）、⑤俄羅斯（俄罗斯） ⑥珍珠港（珍珠港）

ビールの飲み頃

日本人の感覚では、暑い夏に飲む、キンキンに冷えた生ビールは最高においしい、と思いませんか。でも中国では、普通冷えたビールはありません。ビールだけでなく、コーラやソフトドリンクもそうですが、常温が基本です。中国人は冷たいものを、好んで飲むことはありません。レストランなどでビールを注文すると、真夏でも常温のぬるいビールが出てきます。日本ではビールは冷えているのが当たり前ですが、中国では「冷たいビール」と注文しないと、冷えたビールは出てきません。レストランに入った時も、日本では氷の入った水が出てくるのが当たり前ですが、中国では、温かいお茶かお湯です。もちろん真夏でもです。日本ではお湯を飲む習慣はありません。冷たいものを好む日本人は、中国人の目から見ると奇異に映っているかもしれません。国民性の違いなのかと感じさせられました。ちなみに、水道水が直接飲めない中国ではタンクのウォーターサーバーがよく利用されます。お湯と水の蛇口がついていますが、水は常温です。これは、完全に中国仕様です。中華料理のメニューに冷菜というジャンルがありますが、これも冷たい料理ではなく、暖かくないもの、常温のものです。日本でおなじみの冷やし中華は中華料理にはありません。「冷

やし中華」は、日本で作られたメニューのよう
です。スーパーなどで販売されている飲料も常
温が基本です。日系のスーパーやコンビニなど
は冷やされた飲料も販売されていますが、現地
の雑貨屋さんのようなところは、今でも飲料は
常温で棚に並んでいます。東洋医学では「冷え
た物」を取り入れて体を冷やす行為は体によ
くないと考えられています。皆さんも暑い夏に、
熱いお茶を飲むのが胃にやさしいと言われて飲
んだことがあるのではないのでしょうか？

禁煙条例について

中国は禁煙・分煙が進んでいません。上海市で
は2010年から禁煙条例があったのですが、現実
には機能していませんでした。これまでは、禁煙
も分煙もされていないレストランが多かったた
め、風下の席に座ってしまうと、こちらが食事
をしてもお構い無しに煙が流れてきます。昔の
日本にもよくあった光景です。しかし、上海でも
ついに、2017年3月1日から禁煙条例の修正案が
施行され、厳格に運用されることになりました。
駅も空港もレストランもホテルも公共施設の室内
は全面禁煙に踏み
切るようです。上
海市はこれまで喫
煙者には天国のよ
うな地域でしたが、
今後は喫煙場
所を探すことも大
変になるのではな
いのでしょうか。非
喫煙者としては、
厳格に運用して欲
しいと期待してお
ります。



■3月からの禁煙条例

“Mobike”って何？

2016年4月に、北京摩拜科技有限公司という民



■歩道に並べられたMobike

間企業が上海市内で始め、急速に普及している
「Mobike」という自転車シェアリングシステムが
あります。夏頃から街中で、銀色のボディーとオ
レンジ色のノーパンクタイヤの自転車をよく見か
けるようになりました。瞬く間に台数が増え、今
では、上海市内だけで20万人を超える人たちが
登録し利用しているようです。北京、広州、深圳、
成都等でも至る所で見かけました。料金の支払い
は、スマホアプリで行います。利用代金は30分
間1元（約17円）という安さです。利用後は、歩
道や公共施設等の公的な場であればどこにでも乗
り捨てるのが可能です。私有地などに停めるとGPS
で検知され、保証金から罰金が徴収されます。日
本でこれが実現できるのでしょうか？個人情報保
護、安全確保、放置自転車対策等々、課題ば
かりに目が行き、恐らく実現できないのではない
のでしょうか。まずはやってみる。問題があれば改
善していく、という中国の積極的な姿勢が見事に
表れています。このようにして、急速に市民の利
便性や生活環境の向上が進んでいます。

中国ネット事情

ご存知の方も多いと思いますが、香港では使え
るGoogleやLINEが、上海では使えません。動画
のYouTubeや地図アプリなどもGoogleのもの
は一切使えません。香港と同じ感覚で上海に行くと、

Google検索も、Googleマップも、Google翻訳も使えないため、路頭に迷ってしまいます。検索しても、「このページを表示できません」というメッセージが出るだけなので、最初は一時的にサーバーがダウンしているのかと思いましたが、中国本土で実施されている「ネット検閲」の影響によるものでした。同様にLINEやTwitterも利用できませんが、それに代わるアプリがきちんと用意されています。

検索アプリは百度 (Baidu)、地図ソフトは百度地図 (中国国内のデータは、上空からの衛星写真や、ストリートビューも見ることが出来ます)、その他のアプリとして微信 (WeChat (中国版LINE))、微博 (中国版Twitter) などがあり、それらを使っています。微信 (WeChat) は登録ユーザー数が11億人を超え、いまや中国人のほとんどが利用していると言ってもいいSNSアプリですが、この微信 (WeChat)、様々な支払いをする人が急速に増えています。イメージとしては、日本のおサイフケータイのようなものと言えわかりやすいでしょうか。微信支付 (WeChat ウォレット) ではスーパーでの買い物、公共料金、ネットショッピングなど、生活の様々な場面において支払いができます。農村部などの固定電話すらなかった人がいきなりスマホを持つようになったりと、中国の携帯の普及は急速に進んでおり、多様な支払い方法なども日本以上に進んでいると感じるところがたくさんあります。もうお気づきだと思いますが、アプリによっては、中国人は、見ることができないものもあります。中国向けに情報発信を考えているのであれば、使用するアプリにも配慮が必要になります。

振替出勤日

「振替休日」の間違いではありません。「振替出勤日」と聞いたことのある方は少ないと思います。私も最初は何のことか理解出来ませんでした。中国には、大型連休が2回あります。国慶節と春節

です。国慶節は中華人民共和国の建国記念日で、春節は旧暦の正月のこと (新暦の正月よりも盛大に祝う) です。どちらも1週間連続の休みとなるのですが、土日のほかに5日間の休日があるのではなく、休日は3日間だけで、足りない2日は前後の土日から持ってきてくっつけています。その2日間は国がこの日とこの日と指定します。国全体が土日を平日 = 振替出勤日とすることで、7連休を実現しています。振替出勤の影響で、去年の国慶節明けは7日連続勤務などという大変な事になりました。7日連続勤務はつらいですが、そうまでしてでも、連休を作り出すのは凄いことだと思います。日本ではとてもできそうにないと思います。その他の祝日も、3連休にするため、振替出勤日が活用されています。

大気汚染

冬の中国は、空気が淀み青空を見ることは稀です。茨城にいと冬場は、空気が澄んで青空が広がるイメージですが、中国は逆のようです。PM2.5の大気汚染については、日本でも報道されているため、詳細は割愛しますが、原因は工場の排煙や自動車の排気ガス、北部の地域で冬場に使われる暖房設備の影響が大きいようです。暖房は安価な石炭を燃料とするものが多く使われています。2015年の中国国内の石炭消費量は1,920百万tで世界1位です (以下、インド407百万t、アメリカ396百万t、日本119百万t)。毎年の傾向として、冬場は空気が淀んでいて、春先位から徐々に良くなっていくイメージです。今は、春の訪れを待ち焦がれて



■晴天の夜明け前の上海

いるところですが、しかし、昨年9月に中国杭州で開催されたG20サミットの時には、5つの省で何百もの工場に稼働停止を命じたとされています。中国では国際的なイベントに合わせて工場が操業停止になることが慣例となっており、2014年のAPEC首脳会議開催時の青空は「APECブルー」と呼ばれ、日本でも話題になりました。杭州から上海は約200キロ離れていますが、8月から9月にかけては、上海でも青空が広がっていました。サミットのための青空演出と言われていましたが、工場の稼働を停止したりする事で青空が広がることから、原因ははっきりしています。

イギリスのロンドンが、かつて「霧の都ロンドン」などと称されたのも石炭による煤煙（スモッグ）が原因だったようです。石炭がほとんど使われなくなった現在のロンドンでは、霧に覆われることはあまり無いようです。そう言えば日本でも昭和時代には、頻繁に光化学スモッグ注意報が発令されたりしていた事を思い出します。日本でも高度経済成長期には産業の発展にともなって高層ビルが建ち並び、工場が数多く建設され、沢山の自動車やバイクが街中を走り回るようになりました。こうして、日本は戦後の復興を遂げ経済大国として発展して来た訳ですが、工場から排出される人体に有害な物質や自動車の排ガスなどはほとんど規制されず、公害問題として大きな懸案になっていました。当時の日本は、環境問題は先延ばしで経済の発展が優先でした。今の中国の状況は当時の日本と似ています。環境汚染は、長い期間有害物質にさらされることで人体に徐々に蓄積され発病するというリスクがあります。短い期間では、影響がわからなくても、何十年と経ってから発病する人が増えるということがあります。タバコも20年吸い続けると発ガン率が上がると言われています。大気汚染の健康被害も似ているのではないのでしょうか。既述のとおり上海市では、今年の3月から市内全域で禁煙条例が施行されます。大気汚染の話からは少し横道にそれてしま

ましたが、中国も少しずつ変わろう、良くなるようにしているのを感じます。政府も第十三次五カ年計画の中で大気汚染対策に取り組むと発表しているので、今後の改革、改善に期待したいところです。

上海ディズニーランド

11月のとある平日、振替休日がとれたので上海ディズニーランドを視察してきました。オープン当初は日本でも中国人来場者のマナーの悪さが報道されたり、何かと話題になったと思いますが、そういったマナーの悪さなど感じる場面も無く、当日はあいにくの雨だったこともあり、驚くほど閑散としていました。8月の週末にも行ったのですが、その時には多少の割り込みはありましたが、今回は皆無でした。前回目撃したゴミのポイ捨ても無くなっており、大分マナーが向上しているという印象です。また、事前に公式アプリをインストールするとアトラクションの待ち時間をリアルタイムにチェックできるので、どのアトラクションが混雑するのか参考になります。入場料金は大人が通常料金（平日）の370元、ピーク料金（土日、祝日、夏休み等）の499元の2段階に設定されています。チケットは、公式サイトから日付指定（だけしかありません）で購入すると便利です。外国人の購入にはパスポート番号が必要で、決済はクレジットカードが利用できます。現地では入園ゲートに直接並んで、ゲートでパスポートを提示すると、その場で紙のチケットを発行して貰えます。ディズニーホテルの宿泊者は、事前に購入しなくても、ホテルでチケットの購入と発行をしてもらえるようです。アトラクションは、どれも最新の機材、技術を駆使しており、映像なども迫力満点で圧巻です。中国だからたいした事ないだろうなどという先入観をもって訪れると、見事に裏切られます。日本とはまた違った迫力、面白さがあります。食事は、ディズニーランドに隣接するディズニータウン（再入場可）では日系のラー



■平日の上海ディズニーランド

メン屋やうどん屋なども出店しています。もちろん、おいしい中華料理のお店もあります。是非皆さんも行ってみてください。

上海へは茨城空港を利用すれば、3時間半です。空港からディズニーランドまではタクシーで30分位です。茨城からなら、大阪の某テーマパークに行くのと時間も大差ないと思います。週末に1日休暇をつけ3連休にすれば、2泊3日で上海のディズニーランドに気軽に行く事が可能です。春秋航空も安いチケットがありますので、興味を持たれた方は、ネットでチェックしてみてください。そして、是非、上海に遊びにきてください。

最後に

色々とお伝えしてきましたが、色々な事に対して変化のスピードは日本とは比べ物にならない位に速いです。Mobaikeの広がりも凄い勢いで、既に第2、第3、第4くらいの類似のレンタル自転車が普及しています。また、昨秋、中国では外国人就労者のABCランク付けが発表されました。国家外国専門家局外国人来華工作許可工作小グループの発表によると、まずは主要都市で試験運用が2016年10月～2017年3月まで行われ、4月1日から全国で開始されます。外国人就労者をハイレベル人材（A類）、専門人材（B類）、一般人員（C類）に分類し、A類の外国人は奨励、B類の外国人は

制御、C類の外国人は排除されていく方向が示されています。つまり、優秀な外国人は来て欲しいが、中国人に代替可能な外国人労働者は、「不要」ということです。A類に分類されるのは、中国の人材誘致計画の対象者など一部のエリート人材のみなので、現在赴任している多くの駐在員はB類にランクされるとみられています。このほか、ポイント加算による「点数評価制度」で85点以上の人材もA類に分類され、さらに60点以上がB類、それ以下がC類となっています。

このような分類制度は、日本でも報道されていると思いますので詳細な説明については割愛しますが、この変更に伴い、駐在員がビザの申請をする時に必要な書類にも変更が生じています。新たに追加になるのが、無犯罪証明書です。無犯罪証明書の発行は警察で申請するのですが、発給できる用件が国や地域ごとに定められているため、中国の今回の改訂については、日本の警察にはまだ通知が届かず、発行してもらえないかわからないという声も聞こえて来ます。

新制度の発表から施行までかなり短期間のため、新制度が始まると、みんな手探り状態になってしまうと考えられます。役所に問い合わせても担当者によって回答が違ったりと、現場が混乱することも多い毎日ですが、まずは、始めようという勢いの良さは中国的です。最後に、私のランクですが、何とかB類に収まりそうです。



■事務所から見た夕景

(問題の答え)

- ①アメリカ合衆国、②ドイツ、③ゴールデンゲートブリッジ、④マカオ、⑤ロシア、⑥パールハーバー